

主な記事

- 基地沖繩をめぐって……………1
- 総会記事などの補足と批判…4
- 会員の近況……………5
- サロ……………7

# 千曲會報

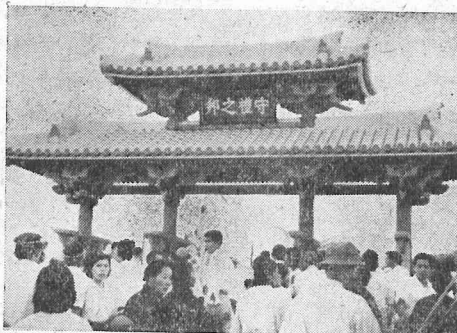
昭和34年3月1日発行  
 長野県上田市常入  
 信州大学繊維学部内  
 編集兼発行人 小山長雄  
 信州大学繊維学部内  
 発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円 振替口座 長野 6243 東京 43341

## 基地沖繩をめぐって

青 沼 茂 (糸33)

昨年10月、はからずも沖繩相互銀行常務、伊波興光氏ならびに級友、緑間武氏の御好意で沖繩に渡ることが出来た。沖繩蚕糸業視察兼技術指導ということで、上田蚕種協同組合常務、茅野功氏と同行した。羽田から空路3時間半、沖繩の首都那覇についたのは夕闇せまるころであった。出迎えの級友と感激の対面、旅の不安も一挙にきえさった。むっとする熱帯の暑気につつまれた空港附近の夜景には何か戦雲をはらんだ妖気がただよっているかのような感じがした。(金門島風雲急なりしころ)翌朝から南部戦跡“ひめゆりの塔”その他の巡拝をかわきりに、蚕業地の視察に着手した。戦後十余年、荒野と化した激戦地も今は静かな緑の原野にもどり、各所に点在する大理石の慰霊碑のみが白く目にしみる。ほるかに当時の惨状をしのび、摩文仁山一帯の岩窟下に眠る同胞の霊にたいして黙禱をささげた。現地にむかうまえ内地で得た沖繩の予備知識は見事くつがえされた。毒蛇ハブ・悪疫等は現在の沖繩本島では殆んどあてはまらないことがわかった。また荒れた本島南部、珊瑚礁台地のせまい農耕地をみて、米軍との土地問題に関する紛糾は深刻そのものであることを再認識した。



さて沖繩蚕糸業といっても、桑は宅地畦畔にみられる程度、島桑といわれる南方特有のもので、年中繁茂し、成長力の旺盛なことが特徴とのものであった。養蚕は本島以外の離島が主である。蚕品種は戦後、屋我地島防空壕内で見出された蚕種(太平×長安系)を、現沖繩蚕糸株式会社社長・又吉康林氏の熱意で増殖普及されたものの、その後の改良は殆んどなされていない。製糸原料としては極めて低級のものであった。年産繭額1万貫たらず、これを消化する機械製糸としては座繰、多条あわせて7釜その他は農家の自家製糸または真綿原料にされている。したがって今後は内地業者との提携による原蚕種の増殖または琉球独特の高級織物(琉球美拵、首里上布 etc.)製造用以外に道のないことがわかった。織物製造業としては南風原地区に手機500台ほどの機業地、高級織物を製造する沖繩織物KK(社長真菜城興盛氏)等で、内地同様

前途に横たわる問題は少くないようである。

蚕糸業関係もさることながら、いまもって記憶にあらたなのは厩大な米軍基地である。もちろん厳重な監視下にあり、我々は遠く金網越しに見える不可解な施設を傍観したにすぎない。現地人すらその規模、人員等の検討はつきかねるとのことであった。ちなみに那覇市より嘉手納飛行場に通ずる軍用道路を紹介すると、道巾数十米、自動車制限速度約80km、右側通行、沿路に立並ぶビルその他一切が米国色でぬりつぶされ、通行人の大半は米人という異国情緒、大ゴルフ場1つの整備にも連日300人内外の軍作業者がこれにあたるかということでも、ある程度の想像はつこう。これに反して、沖繩全土でたった1本の日の丸を掲げた那覇日本政府南方連絡事務所は戦火を奇跡的にまぬがれたビルの片端にあり対照的であった。

気候は4月中旬～6月上旬は雨季、内地の梅雨期にあたる6月中旬～7月は乾燥期で、これに引続いて暴風期にはいり、年の三分の二は夏の気候とのものである。年降雨量の多い割合に水不足になやまされることも多く、本島南部では小高い丘の上いたるところに、米軍飲料水タンクが見られ、水の配給を受ける現地人の長蛇の列、いたるところの店頭にならぶ“コココーラ”等が印象に残る。面白いことには、米軍の腕章、部隊標識等に神社の鳥居のマークが用いられ、那覇市にある波の上神宮の鳥居、あるいは首里城跡に復元された守礼門(写真)等が彼等にとって、余程珍しいものであるかのように思われた。

沖繩から帰り、「沖繩の印象はどうですか」等の質問をよくうけたので現地の模様を少々お伝えしよう。軍用地周辺の一般民家は、土地補償料等で一応立派にたてられている。屋根は台風にそなえ、ピラミット型の漆喰固め、しかし都市をはなれた離島では粗末なカヤ葺平家に、海岸から集めた珊瑚礁でかこみ寒調にしたもの、ぶっそう華等の防風林で保護しているもの等色々であった。言葉は日本語が標準であるが、現地人同志の会話は全然わからない。しかも僅かはなれた島

ごとで大部ちがうという代物、たとえば、「ワンネーイヤー・イヤー・イッペーシチューサー(I love youの意)の如くである。また幾度か圧政下にさらされながらも古典芸術は極めてよく保存されている。琉球民謡、舞踊等は哀調をおびたうたと、蛇味線のしづい音がよく調和し、しかもお能又は仕舞調の踊りにはすっかりみりょうされた。

暑さのせい、肥満した女性は少く、どちらかといえば、やせ型で、顔のほりが深く、媚びをもっているのが魅力的、また意外に声量豊かな美声の持主の多いのには驚かされた。衣裳は全部琉球特製の薄物から実に鮮やかな紅型模様のこったもの等我々の眼をたのしませてくれた。つぎに琉球料理を食わずに帰るものは琉球を知らないと言われ、「松乃下」「左馬」等の一流料亭で真物を味わう機会を得た。

一般に熱帯生活での体力消耗をカバーするためか、豚料理が多く、その他珍品として、「豆腐ヨー」などがあつた。これは紅型(麻・綿織物を主とした型染の一種)、泡盛と共に沖縄でなければ出来ない逸品とされ、赤コウジ、豆腐、泡盛を配合して3ヶ月を要してつくられるとかであった。さらにお菓子は高温多湿な現地で保存のきく黒糖菓子(アリヘイ物)、焼菓子等種類も多く、織物染色と同様、南方独特の植物から採集した天然色素が好んでもちいられており、原色に近い鮮やかな色調は一特色といえよう。

話が横道にそれたので、現地の生活状況の一端を紹介しよう。我々のいった直前(昨年9月)に、通貨はB円からドルに切替えられ、現地ではようやくドル・セントに馴染んだころであった。この切替時に物価はつり上げられ、一般消費者に苦痛のたねとなっていた。しかし内地からいった我々にはカメラ、時計、貴金属、コーヒー等が異状な安値で驚かされ

た。近く沖縄は「No Tax Free Zone」に指定される気配もあり、香港化することも懸念されていた。何分にも輸出18億に対する輸入180億と、著しいアンバランス、これが取支は専ら米軍の消費経済によって支えられているという現状であった。沖縄産業として将来も期待のもてるものは殆んど見当たらない現在、仮りに米軍の撤退が行われたとしても、その後の自立は極めてあやぶまれている。近年、生活のために赤線地域に転落する女性も多いといわれ、那覇人口20万のうち、6万余のサービス婦、2万の赤線地帯の女性が数えられており、前途は大きな不安につつまれていて。特に離島の生活は一層苦しく、若い層は已むなく出稼に本島に渡り、残るものは老人のみ、全く文化から見放された感があつた。現地ではこれらに対する対策として、琉球緋、麻織物など、家内工業技術の普及に苦心がはらわれていた。我々の渡琉も同様意図から発した愛国の士、伊波、緑間両氏の熱意によるものである。戦後、零からスタートした沖縄同胞と今後色々の面で手をとりあつて進む上に何らかの参考ともなれば幸せである。

なお、「文芸春秋」昨年12月号に掲載された梶季彦氏の「与路の歌」島見聞記は沖縄の離島生活を知るよい文献である。また本会報 No. 51、牧富寿雄氏の「日本の最南端奄美大島」No. 71「沖縄同窓の近況」No. 76、緑間武氏の「沖縄の現状について」などを改めて御参照願えれば、ここで充分かきえなかつた不足分を或る程度おぎなうことが出来るものと思ひます。

おわりに、沖縄滞在中終始御世話願つた伊波、緑間両氏、又吉社長、琉球中央農業研究指導所、日本ホテルの各位に深甚の謝意を表します。(おわり)

## 総会記事などの補足と批判

1月号を見て

香 山 清 和

総会は千曲会の最も重要な行事であるので詳細に報告されなければならないのに昨年の千曲会報の総会報告は甚だ不完全であった。あれでは総会の意志が会員に充分行き渡つたとはいわれぬ。本年もやはり同様であろうとの想像の下にそれを補うために1月号に一筆総会見聞記を物しようと思つたが新年度から会報の頁数を減少すると決議され且つ1月号は年賀広告で頁数を喰うので速慮しその上会報に載つた総会記事との重複を避ける事も考慮して(本当は僕のソロモンの結果かも知れない)本月号に書いた次第である。第三者の立場に立って公平に書いた積りであるが生来少々左ネジの僕の頭では真直に書ける訳がない。多少ひねくれているのは賢明な読者の頭で補正して読んで欲しい。というてもこんな記事は誰も読んで呉れないからその心配は無用かも知れない。又考えようによっては多少主観の入つた記事の方が面白味があると自画自賛して書く事にする。例によって筆が少々外れて総会記事以外にも触れた点を諒とせられたい。

○  
今回の総会の出席数は23支会96名に達し5年前の14支会72名に比較すれば格段の増加である。然し最近では出席支会数こそ増加しているが全出席数は殆んど増加していない。むしろ上小其他近在の会員の出席数は減少している。特に本年は50周年記念事業実行委員総会も併せて行われたので相当に出席者も多くなつたと思つたのにほんの僅か増加したのみである。これはどうゆう訳か。これには種々理由もあろうが会場の狭いのも大きな原因であろう。腰掛の置場もないような処え立たせられたら二度と出席するのがいやになるだろう。次の総会は最も大掛りになるだろうし又そうしなければなるまいから講堂を借用した方がよくないか。又何年来一度も出席しない支会は出席させるための特別の手段を講ずべきであろう。

○  
1昨年迄の総会は支会の提出議題多く発言も活発で議長は議事を速かに進行させるにこれ努めたものであつたが昨年の

総会は全く反対になり支会より出題一つもなく発言は少く山本議長は時間の引延しに揮心努力し遂には宮城蚕糸課長の中共視察談、小林ボーイスカウト団長の欧米視察談の飛入りで漸く懇親会の定刻まで持込んだと云う有様であった。然るに本年の総会は支会提出議題も発言も多からず少なからずそれに沓掛議長のおよそ議長らしくない型はずれの議長振りに質問の鋭鋒は弱められてスムーズに進行し丁度定時ピッタリに終了するとゆう100%理想的の総会となった。こゆう結果になったのはもう充分検討し尽された50周年記念事業が主であったためかも知れないし、名議長のせいでもあろうし又出席者が本部に協力的で反対するがための反対とゆう事がなかったのによるかも知れない。然しなんとなく物足りなく感じたのは僕丈だろうか。やはり甲論乙駁とゆう状態が望ましいような気がしないでもなかった。特に発言の目立ったのは埼玉の武田氏、千葉の宮本氏位であったが何れも協力的なものであった。特に宮本氏が繊維業に無関係の立場で弱体千葉支会の新設に努力され熱心に建設的な発言をされたのは感銘させられた。

東京支会の最近の良心的な協力的な態度には非常に感謝しているが今回の総会に於てはその感を一入深くした。例えば本会議における小林氏の建設的な発言といい役員詮衡委員会における岩本氏の良心的謙讓的な意見といい実に頭を下げさせられる思いであった。東京とゆう日本の檜舞台で得た新感覚で今後大いに本部に役立つ忠言を賜らん事を望むや切なるものがある。

今回の総会が低調であった(これは僕丈の感じかも知れない)とすればその原因の一半は執行部にもあるようだ。諸報告や質問の解答に際し若林事務局長の欠席のせいもあったろうが庶務理事、会計理事の不勉強のせいか低声で不得要領の説明では質問するのが嫌になるだろう。結局野口理事長一人で大部分の質問の矢面に立つとゆう形になったのはよくないと思った。校内理事が町田、中島両氏を除いては一言半句も発言せずならび大名でいるのは改めるべきである。もう少し校内理事に職務を分割し責任を持って担当させる形をとるべきであろう。特に50周年記念事業を完璧に遂行させるにはその必要が大である。

役員は50周年記念事業の関係から一昨年の改選で減少せしめられた校内及び地元を増強したい希望であったがそうかといって他地区の役員は減少する訳にも行かない。それで会員数が増加しているので役員も比例して増加すべきであるのでこの際定款を改正し理事20名を25名に増加し(監事5名以内は変りない)この増加分を校内及び地元の増強に当て更に会員の比較的多い近畿、東海にも理事を置くように要望したが詮衡委員会の結果では校内は3名増加、東海近畿に各新1名、東京1名減の代りに埼玉新1名とゆう結果になった。理

事25名は50周年記念事業が済んだ後には或は多過ぎるかも知れないので定款では25名以内とし必要のない時は適当に減少出来るよう幅を持たせた。このことは会報に載っていないから特記して置く。理事詮衡の考え方にたとえ出席出来そうもない人でも積極的に協力して貰う意味で作ってもよいとゆう意見もあったが理事は執行機関であるので出席出来るとゆう事は絶対の条件として詮衡された。役員は漸次若い人を多くし新鮮味を加えるべきであるが今回はその程度は僅かに止った。又野口理事長、小林副理事長の三選、猪坂副理事長の二選も同一人が何度もやるとゆう点からは必ずしも好ましい事ではないが何れも留任となった。之等は50周年記念事業を強力に推進するには変更しない方がよいとゆう考え方から打出されたものである。従って50周年記念事業が終了したら全面的にオールド組は退陣し若返らせる事が望ましい。

東京及上小支会提出問題の内「時勢に應ずるよう母校改革の要望について」は誰も心配している問題で相当建設的な意見があったがここにそれを書くのは貴重な紙面を徒費し且つ当り障りもあるので省略し本日の会議で設立決定した母校振興委員会が間もなく開催されるのでその際に譲る事とした。

次の東京支会提出の「支会の適正なる分合について」は現在の分会の範囲には確かに不合理なるものがあり50周年記念事業完遂のためにもその適正化が絶対必要で僕から本部に原案を作ったらどうだと勧めた事もあったがその儘になっていたものが今回東京支会から提出された訳で速かにそうする事が望ましい。既にマンモス支会東京では千葉の分離を終了し山梨の分離も計画中と聞く。近畿も進行中だそうである。同じくマンモス支会の上小もその必要がありはしないか。各支会に自主的推進を望むも一法であるが本部で第三者の立場から一応原案を作り各支会の意向を聴くのも之を促進することになるのではないだろうか。何事によらず本部の原案を持たない指導力の不足さを強く不満に感じている。

50周年記念事業実行委員会総会は僕が役員詮衡委員会に出席している間だけ欠席になったので充分な感想は書けない。50周年記念事業は本会の過去にもなく未来にもないかも知れない最大の事業で醸出金が目標を突破するか否かは本会の鼎の軽重を問われる重大な事業である事を銘記すべきである。然るに記念事業の主体が建造物でなく且つ幾らなければ駄目だと云う限度がない点で非常な弱味がある。僕の家である繊維会館建設はその点では絶対の強味があり上田高校(昔の上田中学校)同窓会の記念事業も校外に同窓会館を建設することに決定した点からも今なお最適の事業と確信するが既に決定し矢は弦を離れてしまった以上この弱点を克服して目標を突破するように努めねばならない。回数別の基準金額は標準ではなく最低と考え必ずこれを超過せねばならない。僕はボーダーライン階級にあるが基準額を上廻って申込んだ。この金額は大多数の諸氏に比較すれば非常な奮発であると確信し

ている。尤も僕の家が実施されれば責任上借金を質に置いても多く出す義務があったその点では助かった訳である。各支会毎に引受額を決めて貰う事が最上の方法であるが支会の組織が充分でなく支会はあるても名許りの所はあらゆる方法を講じて組織化しなければならない。そして組織化が出来たら直ちに支会総会を開催し校内理事が出席するようにする事が必要である。各支会における釀出方法は合計幾ら、誰はどの位と卒業年度別以外の条件も考慮に加え目標額を定めて実施して欲しい。そうでないと意外の小額で固ってしまう恐れがある。然しそうする事が各人に割付寄付と云う観念を与えてはならない。あくまで自由且つ任意のもので個人の意志を尊重せねばならない。又お偉い方々の特別口を作り理事又は支会長に直接交渉して(場合によっては顧問相談役を煩し)貰う事も必要であろう。各位の御努力により1000万円位集め60万円しか計上されていない千曲会使用分を増額し何か後世に有形財産を残すように是非したいと念願している。

千曲会報は千曲会の最も重要な且つ唯一の(少し大袈裟かな)会報を引張って行く事業である。にも拘らず新年度予算では金がないから発行回数は減らさないが頁数を12頁から8頁に減少するとの事である。僕は反対である。絶対に減頁してはならない。こんなことをすればジリ貧の一途を辿り発行しないのが最上の途と云う結果になる。少くとも50周年記念事業迄の間は絶対に減頁すべきでない。それでは金の足りないのをどうするかとゆう事になるがそれに対しもう少し積極的政策を採れと勧める。まず第1に広告の掲載に努力すべきである。広告が一つもないのを実に不思議に思っている。又会費の納入促進にももう少し努力すべきである。

第2は記事内容の刷新である。繊維や蚕糸くさい研究くさい記事は第三種郵便物の体裁をつくるために第一面丈で沢山だ。その分を会報の使命である会員の最も希望している千曲会記事、支会便り、校内ニュース、学友会便り、上田便り等で埋るべきだ。これ等の記事は現在ほんの申訳程度に書いてあるか又は全然書いてない。又仕事及び経費の能率をあげるために請負にするのも一法であろう。編集の仕事は事務局が担当の方がよくないか。送付された原稿を載せるが主ではなく編集部自体が執筆し又は題目を決めて適当な人に原稿を依頼するのを主にすべきである。会報のような恒久的且つ重要な仕事は特に興味を持ち熱意のある者に専任でやらせるようにすべきである。若し交替制などを現在もおやっているとすれば直ちに全廃すべきである。

これは編集部の責任のみに帰せられない事かも知れないが会報の総会記事の取扱の不充分さが目に付く。総会の出席者の氏名も書くべきだし記念写真も載せるべきだと思う。懇親会の記事も書いた方がよくないか。決算報告に関連し和田監事の監査報告のあった事も記すべきである。定款変更に対し

ても前定款と改正定款と合せて載せるべきである。基本財産の保管方法につき定期預金よりも少し有利な方法を研究する事が本部一任になった事も書いてない。又評議員改選が理事会特に校内理事一任になった事も載っていない。以上は筆者の気がついたものを書いたものであるが当事者から見ればまだ落ちているものがあるだろう。

○

千曲会報の編集については以前本紙で苦言を呈した事がある。然し何等の進歩も見えていない。

いったい編集部はよいものを作るうと努力しているのだろうか。印刷所へ組んで渡しているのだろうか。仮に組んで渡さないとしてもこんな体裁の悪い組み方をする印刷所もどうかしていると思う。

総会記事文見ても決算書、基本財産書、予算書などの諸表の一部が次頁に顔を出している。これを出さないようにするのは容易であり常識である。また諸表には全部枠に入っているもの、外側枠のないもの、全然枠のないものと種々雑多である。

之は全枠に統一すべきである。又以上総会の認定に付す、昭和33年11月23日、千曲会理事長、予算案など少し注意すれば必要のない事わかるものが書かれている。50周年記念事業申込(支会別)覧も一部枠があり一部枠なしもおかしい。之は枠は要るまい。

序に総会記事以外に目を移して見る。広々と場所をとって「秋のエチュード」をとんでもないところへ割込んだのも不体裁だ。母校だよりの中に「黒岩先生表彰章」も入れるべきである。母校だよりと本会日誌の題目の字の大きさがあまり違いすぎるのもよくない。記念事業費申込が中断されその間に「あれから40年」の記事が割込んであるのも感心出来ない。記念事業募集広告や退職記念品募集広告も1回丈でなく、続けて出さないと内容が徹底しない。記念品代領収も空白が多過ぎて不体裁だ。金額を書き、次に氏名は2列に入れるべきである。卒業年次別のあるのとないのとあるのもおかしい。記念品代領収の末尾が15頁に喰込んでいるのもよくない。14頁内に詰めるべきだ。そして年賀広告は15頁の頭から始め、その結果生じた空欄には編集後記を追加するか、或は年賀広告を少し大きくしてもよい。支会総会及び同級会記事の寄せ書凸版も記事の末尾でなく中央に入れるが普通だ。写真が一つもないのも淋しい。電鉄や写真館の名前を入れる事を条件にすれば只で銅版を貸して呉れる。「前頁より」が各所にあるのも不体裁である。組方を工夫すれば相当少くする事が出来る筈だ。

以上はちょっと目に触れた処文を拾ったのであるが時間をかけるともっと探し出せるであろう。

然しこうゆう風に書いても編集部各位が寸暇を割いてこの面倒な仕事をやって居られる事については常に感謝している事ははっきり申上げて置く。

## 会員の近況

### 三丹支会総会便り

目 崎 正 夫

当支会総会は例年丹波の綾部か福知山で開く関係上、但馬、丹後の方々には御足労を煩わしているため、今回は但馬の国「城崎温泉但馬屋」で11月30日開催した。

総会には本部理事山口定次郎教授が遠路わざわざ御出席下され、母校創立50周年記念事業募金に関して特に種々と協議がなされ、当支会も強力にこれが遂行に協力し、記念事業を達成することを再確認した。

新役員には次の通り大部分が再選された。

支 会 長…馬場長市(糸16)

副支会長…細川 豊(蚕16)

幹 事…(長)太田良信(糸17) 林秀門

(糸19) 村上義美(糸24) 塚田和磨

(糸25) 金井 保(蚕34)(事務)

尚支会運営強化のための地区連絡員は次の通り決定。

豊岡地区 島山茂忠太(糸13)八鹿地区 内田訓之亮(蚕13) 氷上地区 久田雅彦(蚕35) 丹後地区 岩崎俊男(化2) 舞鶴地区 千葉一雄(紡7) 丹波地区 柳沢 涵一(学紡3) 綾部地区 目崎正夫(蚕28) 福知山地区 林秀門(兼)

尚総会出席者は上田本部から山口理事、支会員は浜香三(紡3) 島山茂忠太(糸13) 宮城長雄(糸15) 馬場長市(糸16) 林秀門(糸19) 塚田和磨(糸25) 永井覚(旧職) 菊地六郎(蚕27) 目崎正

夫(蚕28) 荒井漸(蚕31)金井保(蚕34) 岩崎俊男(化2) 大滝忠長(学紡6) 宮田美喜雄(学糸6)の15名であった。

### 城の崎と綾部訪問の記

山 口 定 次 郎

三丹支会是最も活発な支会であり、支会総会はしばしば綾部で開かれているが、但馬地方(兵庫県)の会員はさぞかし集まりにくいだろうとの、支会長の温かい心づかいから、今回は、綾部からは2時間半もかかるこの地を選んで開くことにされたという。

私は前夜の準急で長野を出発し城崎へは翌11月30日午後2:18に着いた。途中綾部からは予定通り馬場支会長、目崎、福地の両兄と旧職員永井覚さんが、私を迎えながら、乗込んでこられ、又福知山では林(秀)さんが乗られ、車中すでに話の花が咲いた。私は震災前の城崎温泉で一泊したことがあるが、あの頃の川も、特徴のある石橋もあまり変わっていないので懐しく思った。一同郡製糸指定旅館の「但馬屋」に到着した。玄関には大き



三丹支会員(城の崎にて)

く「千曲会三丹支会々場」と書かれている。立派で感じのよい旅館だ。すでに島山さん(糸13)や若い3, 4人の会員が設営にせわしそうである。私は島山、林の御二人に案内されて町の温泉で先づ城崎の湯の香を満喫した。

総会は4時頃から始められた。15人のよい集まりである。会の模様は目崎幹事長の記事の通りであるが、支会長の上田での総会の報告は実に詳細を極め、又その熱意に敬服を禁じえなかった。私は母校50周年記念についての報告をのべ募金については、すでにこの支会は、割当分の申込み完了に近いことの御礼を述べ又一層の御依頼をした。会員のみなさんも誠意をもってより以上の募金のために協議され、それぞれ地区委員を設けて分担されることになった。

続いて懇親会が催され互に旧情を温めることができた。卒業以来、殊に30年もお目にかゝらぬ人々との歓談は出身科にかかわらず殊に懐しく嬉しいものである。美人の歌や踊りで城崎情緒も味えた。若い人も古い人も入り代って上田名物パッパを踊った。新しい大学の校歌を作れと要望された支会だけに、「みくにのためにますらをが…」を斉唱することも忘れられなかった。最後に母校、千曲会、そして支会の万歳を三唱して一応幕が閉じられた。町には秋雨が湯の香と交って煙っていた。

この夜は目崎氏が同宿され私のためいろいろと世話を下さった。私達は翌日早朝に宿をたち、久々なので綾部に下車し、郡製糸を訪問、見学した。石田社長さんはじめ数人の幹部の方々と共に中食をいたゞきいろいろとお話を伺った。続いて神榮生糸を訪問、細川豊氏をはじめ村上、平坂その他の諸氏に会った

## 千曲会員名簿発刊のお知らせ

記

先般発刊(昭和30年)した名簿も各位の住所に変更があり、今回新しく作成することになりました。明年は母校の創立50周年記念祭を行なう年でもありますので名簿もその事業の一つとして発刊したいと思います。つきましては本人の住所は勿論、友人或は最寄りの会員の住所も知っていましたら御知らせ下さい。尚市町村合併などで市町村名の変更したものは必ず御知らせ下さい。

本会には名簿発行の費用がないのでこの経費は会員各位の協力を願ひ購入していただくかねばなりません。したがって左記の要領で予約募集をし、経費をつくりたいと思います。事情御了察の上御協力の程御願ひします。

- 1, 頁数 590頁 B6版 会員約 4000名
- 1, 発行予定期日 本年10月末日頃
- 1, 頒布価格 未定 目下原稿作成中で近く印刷所と交渉して決定しますが大体 300円前後だと思います(前回は250円でしたが、印刷費その他が高くなっています。)

昭和34年1月 千曲会動静部一同

り、社内見学をやった。また農林蚕試関西支場を訪問、森本氏他多くの人々に面談できた。この日は京都に出る積りでいた所、細川副会長や郡是の皆さんのお言葉に甘えて、とうとう綾部でも一泊という仕儀に相成った。蚕桑研究所長の諸星静次郎さんも来て下さって、蚕糸業論、皇太子婚約論、宗教論など一層話しがはずみ、この夜もまた旅先とは思えぬ愈しい一夜を過ごした。

翌日は京都に出て繊維学部の2、3の教授にお会いし又、京大農学部に西山市三教授を訪問、見学などをさしてもらい夕刻京都をたち帰学の途についた。

今回の旅では馬場支会長、畠山(茂)、林(秀)、細川、永井、目崎の皆さんには特別の御世話になり感謝に堪えません。紙上から厚く御礼を申し上げます。

### 蚕試千曲会だより

師走のこえをきいて間もない2日、恒例の蚕糸試験場在職千曲会々員による1958年の忘年会が行われた。

この会は毎年12月初旬に公務で東京の本場集まれる全国各支場の同窓諸氏を交えて開かれるため、場内の忘年会のはしりとして早々に行われるのがならわしである。

今年のメンバーは写真でご覧の通りの19名で数々の業績を残して40年間の試験場生活から勇退される太田慎一郎氏の送別会と、11月以来本場勤務となられ試験場のブレンとして活躍の尾藤省三・竹内孝三両氏の歓迎会も兼ねて行われた。

会場は青梅街道をはさんで試験場と目と鼻の先にあるそば屋松月庵の二階である。盛り場のネオンもひときわ色をます夕刻6時会は開かれた。太田氏の40年間にあった様々の思い出をつづつのご挨拶、尾藤・竹内両氏のご挨拶などあって宴会に入る

アルコールが適度にまわって顔に赤みがさしはじめると、いずれ劣らぬ議論好きの面々それぞれの立場からある人は蚕糸業の将来を論じ、ある人は試験場の在り方について口角泡をとばして意見をの

べ、ある人はまた母校の将来について語るなど、上田での生活の間に信州人の議



論好きがすっかり身についた感じである。回した寄せ書も放ったらかして顔を真赤にしている人もあってとりまとめるのにひと苦労したが、どうやら出来上った。

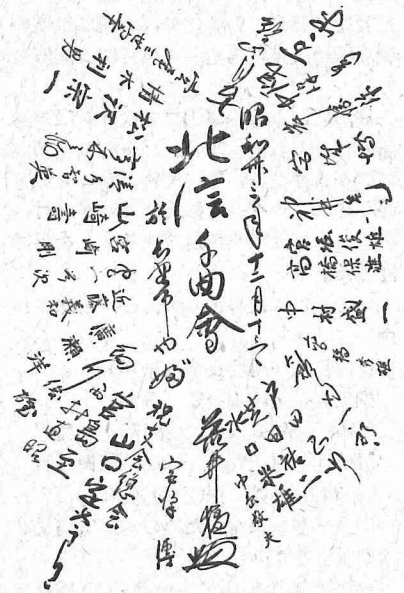
繊維業界特に蚕糸業多難な折、この方面での研究に携わるわれわれに課せられた責任は極めて大きい、一同大いに張切って斯業のために健闘することを誓い、最後に記念写真をうつしてこの会を閉じた。(小松)

### 「やぶ」での北信支会

12月13日北信千曲会総会が長野市の「やぶ」で開かれた。二百数十名の会員をもつこの会は体が大きすぎて運営しにくい現状にあり、須坂地区が別に支会を作りたいという状態であるが、今回の母校50周年記念事業資金募集の大事業をひかえて何とかして、多勢が集まってもらいたいという、荒井支会長、宮城副会長や幹事諸氏の努力がむくいられて今回は、40名近くの出席があり、最近としてはなかなかの盛会となった。

荒井支会長の挨拶、各幹事からの事業報告、会計報告等あり本部から理事の山口教授が出席され、母校近況、千曲会事情について話され、この支会が上小支会

と共に本会にとって近衛的存在であるから今回の事業にも特別の協力を願いたいと結ばれた。又地区別の募金方法の打合せや、名簿の改訂を行い、更に役員選挙に入ったが異議なく前会長副会長が推せんされ再任となった。



懇親会に入って、自己紹介だけでも長時間かかった。岸勝弥(蚕3)さん 高木三治(糸3)さん等の大元老が出席されたこと又いつもより若い卒業生が多かったことは何よりであった。

母校や、千曲会への要望や不満も山口先生へザックパランにぶちまけて、いくらかせいで済んだ。歓談は尽きる所を知らなかったが、最後に宮城蚕糸課長の音頭で母校と千曲会の万歳が三唱され、名物「やぶそば」に舌鼓をならし三々五々に散解した。

(広瀬洋記)

### 原田先生御逝去

旧専門学校教授で大学昇格後も講師として昭和28年まで母校に奉職された原田親雄先生(72才)は、病氣御療養中の所去る1月27日東京の自宅(世田谷区上馬1ノ736)で亡くなりました。謹んで哀悼の意を表します。

# Shiki Kuma SALOON

## われわれの歓び

S I 生

会報1月誌上にK助教授の便りを見て感慨無量のものがあった。上田の若い学徒に斯様な頼もしい研究者があると知ったことと、学界の規定解釈や応用の非常識であることである。これを見た会員の中には切齒扼腕した人もあったろうと思われるが、考えてみればこれは小さい残念で、表彰に外れても実績の挙げたことがわれわれの歓びであり甚大のものである。これを知った私には年頭最大の慶賀ニュースであり、謹んでK氏に祝詞と感謝を表するものである。

ノーベル賞は世界的人気ものであるが、其表彰対称の撰定が非常識であり見戯に類するものであることを考えてみるのも同氏の慰めであろう。キューリー、アインシュタインが賞せられたは良いとしても、今の原子科学の生みの親である長岡半太郎博士や酵素発見者鈴木梅太郎博士が忘れられ、英国のチャーチルなどが撰賞されるから人を笑わせる。これも笑話だが、もし私がノーベル賞審査員であるとすればまず古人では老子・釈迦・基督・ガリレオ・ニュートン・関孝和・アインシュタイン・キューリー・長岡半太郎位で他は2流以下であり、判明すれば天文暦の発明者は1級人であろう。元来ノーベル賞贈呈規定が愚劣である上に審査員がチョンと来ているから、こんなものを気にする世界人総てが凡物であることを我が上田学人は遠見すべきであろう。

憶うにガリレオ・長岡などの達人は世人がどう思うが頓着なく確乎とした信念を以て人生を終つたらしい。今の若い学者は世間の人気など考うべきでないだろう。だが世人の上を思う親切は忘れなさいとお願いする。

## 石倉先生へ

竹内善吾

— お詫び —

私の奉職している学校の野球部の後援費用のことや、就職斡旋のことで昨年(1957)の秋上京して阿佐ヶ谷の野間素藤さんのお宅にお邪魔しました時、野間さんの奥さんとはときどき先生のお宅へあがつて上田のお話や、昔話や、思い出を語られること、微恙ながら元気でおられることなどお聞きして、とても懐しく、すぐにお手紙をと思ったことでしたが、ついズルズルと今日にいたりました。住所をおききするのも億劫になってこの紙面を拝借した次第です。

お別れしてからもう何年でしょうか。私も54才にもなって、すでに頭髪は真白です。ただし体は頑健というところで。今年の夏は32~3才の若人2人と燕・大天井岳などを歩きましたが、彼等よりも脚も体も丈夫だったと自惚れているほどでした。大天井岳から燕山荘まで1時間20分で来ました。青年なみのアシのようです。昭和5年秋上田蚕試支場に転じ、そこで7年間過ごし、12年5月、岩手県庁に行つて、4年目に召集されて満州、スマトラ、ジャワ、マレー、タイ、ビルマと転転とし、終戦をビルマで迎えて後2年間捕虜扱いされシンガポールのパーシバル以下10万の捕虜を日本で虐待した報復手段としてでした)ました。

22年8月復員し、9月岩手県に復職しましたところ、当時課長空席で、同窓や友人が大変心配してくれましたが、母を田舎において自分だけのことも考えられず、ひと思いに方向を転じて母校でもある蚕業高校に教べんをとることにしました。もう10年です。先生も古稀をこされたことでしょうかね。でも私の眼には上田当時の多分50才以前のお姿です。私共の卒業記念にうつった入江・笠原・島原・三木・須藤・湯原君等と先生と清水さんと一緒の庭球部の写真の面影が印象に残っています。

上田当時はよくテニスをされましたね。私も下手で、先生もあまり上手では

なかったですね—失礼—。でもお好きで暇さえあれば、清水さん、倉沢さん、高野君、平尾の季ちゃん等と試合したものでしたね。下手、上手はともかく実に和やかで愉快でした。アウトラインすれすれの球をわざわざ実地検証されて私に有利な判定をされたことなども思い出されます。

秋の甘茶会には写真や絵等を出品され、関口義照さん、宮島さん等の批評、先生の批評、などすべてためになりました。下手ながら私も毎年1~2点出品して批評をいただいたことなどとてもなつかしい極みです。7、8才の頃、鉛筆をもたされていやいやながら基礎的な勉強をされたという先生の墨絵は、私共にはよくは判りませんでしたが風格があり見あきないものでした。多分昭和4年秋頃だったと思いますが、わざわざお願いしたところ、菅平の熊笹の春雪と若松をかいいただき、試験場に転じていたのにお届け下さったように思います。ちょうどその頃、戸倉温泉へ行つた時千曲川べりで当時流行の子供のチャンバラを撮ったのを出品したところ、面白いというので、紡績科圖案室に掲げるからといわれさし上げましたところ、間もなくその原板(ネガなんていいませんでしたね)をなくし焼き増しが出来ないことになり、つい先生から取りもどしてしまいました。その代りを必ずさし上げるというお約束でしたのに……それからもう30年近くになりますね。戦地でもときどき気になりましたが、今でも忘れられません。毎年5、6本はとります。その都度先生へのお返しをと思ひながら良い作品ができません。

来年中にはと思っていますが……。今、これにしようかと思っているのが、1枚ありますが、マアもう少し待つて見て下さい。来年中に良いのが出来ませんでしたら、それにいたします。絵をいただき写真をとりもどしてモー30年、それを悩みつづけてその實を果していません。

どうかお元気で過ごし下さい。

(昭33.10.10)

50周年記念事業申込  
(1月31日現在)

支会扱い

1 熊本支会

3,000円 深 迫 明(蚕16)  
林田 義雄(糸21)  
原田 正彬(糸22)  
岩尾 今生(蚕31)  
2,000円 野崎 昭嗣(化6)

2 北陸支会

1,200円 丸 山 裕(紡28)

3 更埴支会

5,000円 児玉 信尊(蚕15)  
2,500円 小 林 茂(農1)  
2,000円 長谷川良一(蚕26)  
1,000円 浦野和雄(学紡1)

4 神奈川支会

5,000円 井上 彰久(紡1)  
1,000円 丸 山 榮(学糸3)

5 上小支会

5,000円 竹内 善吾(蚕14)  
榎村 忠義( )  
若林 為夫( )18)  
4,000円 横山 忠夫( )22)  
3,500円 北原 幸治( )26)  
2,000円 神 津 昭( )36)

6 岐阜支会

1,000円 飯 島 暢(農2)  
市川 秀郎( )3)  
上原芳友(蚕別5)

小林 一恵(農3)

5,000円 鍵 谷 伝(蚕7)

4,000円 堀 口 友治(蚕25)

7 島根支会

5,000円 蒲 生 勇一(糸10)

8 山形支会

5,000円 栗 原 章(蚕5)

1,000円 滝沢寛三(学蚕3)

井上 貞二(蚕28)

9 近畿支会

2,000円 脇 川 準(農2)

個人申込

3,000円 関 田 九平(蚕5)

2,000円 西 沢 良一( )21)

小 計 90,200円

累 計 965,450円

蒲生俊興先生退官

記念品代

(1月31日現在)

金 2,000円 武本 本治(蚕13)  
金 1,000円 立野小太郎( )37)  
小松 茂男( )22)  
降 旗 孝( )15)  
金 600円 森 亮 平( )17)  
西山 市三( )9)  
鈴木正一郎( )22)  
金 500円 小 林 陽(学 )5)  
市川 誠二( )2)  
山岸 松治( )22)  
野沢司馬作( )13)  
若林 為夫( )18)  
三輪 貞徳( )13)  
内 川 勇( )13)  
大沢 宝市( )16)  
小出権五郎( )22)  
鈴木 高行( )24)  
小山 恵治( )15)  
中山 吉二( )12)  
堀 川 収( )20)  
鎧塚 好作( )22)  
金 300円 小 池 溼(学蚕1)  
小柳 源一(蚕24)  
金 200円 小 沢 安雄(学蚕1)

倉沢美德先生退官

記念品代

(1月31日現在)

金 1,000円 小松 茂男(蚕22)  
降 旗 考( )15)  
武本 本治( )13)  
金 600円 森 亮 平( )17)  
鈴木正一郎( )22)  
金 500円 鎧塚 好作( )22)  
山岸 政治( )22)  
野沢司馬作( )13)  
若林 為夫( )18)  
三輪 貞徳( )13)  
鈴木 高行(蚕24)  
内 川 勇( )13)  
大沢 宝市( )16)  
小出権五郎( )22)  
武捨 武雄(農1)  
小山 恵治(蚕15)  
中山 吉二( )12)  
堀 川 収( )20)  
金 300円 小柳 源一( )24)  
金 200円 小 沢 安雄(学蚕1)  
(旧関)小林成雄(蚕別3)

お 詫 び

先月号の蒲生、倉沢両先生記念品代領収報告は本会会計係の手違いにて下記の通り訂正致します。

蒲生先生分 金 250円 高田正気(糸25) は金500円に訂正  
金沢先生分 金 250円 高田正気(糸25) は削除 以上

# 母校だより

- 2月7日(土)、8日(日)の両日にわたり信大工学部対抗スキー大会が普平で開催された。
- 2月14日(土)午後2時から母校学生後援会理事会を開催し、34年度の予算や総会開催等について審議される予定である。
- 2月20日(金)から約1週間の予定で4年生、別科生にとっては最後の学期末試験が行なわれる。  
尚卒業式は3月10日の予定である。

## 本 会 日 誌

- 1月10日 東海支会総会に山口理事が出席された。
- 1月17日 千曲会館で本会母校振興委員の第1回委員会が開かれ、教養問題、母校の将来、学科の名称等について検討された。次回開催の日時については年度末の行事等の関係もあるので学内委員に一任された。
- 1月25日 東信千曲教育研究会が母校会議室で行なわれた。

## 編 集 後 記

寒々とした信濃路にもようやく春のきざしが見え初める頃となりました。会員の皆様方にはそれぞれの期末をひかえて御多忙のことと拝察いたします。母校も例年のことながら、卒業式・入試・或は学会など一年中で最もあわただしい時間になります。御自愛下さりましてお励み下さい。

編集理事 田口 亮平・白井 美明  
編集顧問 小山 長雄  
編集部員 一之瀬匡興・三石 賢・矢彦沢清久  
篠 原 昭・降旗剛寛